



## 就任の挨拶

京都府立医科大学附属北部医療センター

病院長 なか がわ まさ のり 中川正法

私は、「京都府立医科大学大学院医学研究科 神経内科学 教授」から、京都府立医科大学教授会の信任のもと、京都府公立大学法人理事長の任命を頂き、この度、新設された「附属北部医療センター教授」として、平成25年4月1日付けで京都府立医科大学附属北部医療センター病院長に就任致しました中川正法でございます。府立与謝の海病院が京都府立医科大学附属北部医療センターとして新たなスタートラインに立つにあたり、同センターの責任者としてご挨拶させていただきます。

「府立与謝の海病院」の府立医大附属病院化により、これまでの「診療」に加えて、「教育」と「研究」という役割をより一層担って行かなければなりません。私は、「北部医療センター」の大きな使命として以下の2点を掲げたいと思います。

第1に、全人的視点に立った医療（総合医療）と高度医療の充実による高齢化社会に対応できる診療機能強化を図り、府北部の中核病院としての役割を果たすことです。高齢化社会では、がん、心疾患、糖尿病、認知症、脳卒中などが増加します。北部医療センターは、最新の医療を地域の皆様に提供できる体制をこれまで以上に充実させます。総合的な診療力を備えた医師を育成し、専門性と総合性のバランスのよい病院を目指して行きます。

第2に、京都府北部地域を教育・研究のフィールドとして位置づけ、診療力に加えて、研究・教育を含めた総合的な医療力を備えた人材育成と地域の特性を活かした研究を推進し、全国から地域医療を志す優秀な若手医師がキャリア形成を目指して集まるような魅力ある大学附属病院づくりを進めることです。「地域医療確保の京都モデル」の実現を目指していきたいと考えております。

また、ひとりの研究者としても、府北部地域は京都府内でも高齢化率の高い地域であることから、認知症に関するコホート研究(\*)や神経難病医療などにも取り組みたいと思います。

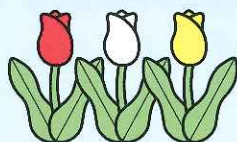
地域の皆様に新しい北部医療センターをご理解頂くために、府民公開講座等を計画しております。

私は、この地域の恵まれた環境を活かして、心身ともに豊かな高齢化社会を実現するために、志を高く掲げて"大らかさ"と"緻密さ"をもって、本センター全員が一丸となって取り組めるように先頭に立って奮闘する所存でございます。

地域の皆様はじめ関係者各位のご支援、ご指導をよろしくお願い申し上げます。

(\*)ある特定の地域住民を対象として、健康状態、疾患発生などについて長期間追跡調査し、研究する方法です。

### 《第132号の内容》



1 ページ

2～3 ページ

4 ページ

5 ページ

6 ページ

● 病院長就任の挨拶

● 附属病院化について

● 診療科紹介 — リハビリテーション科 —

● ナースのお仕事2 — 白数多恵子 (4師長) —

● 地域医療連携室「かけはし」 — もの忘れ外来について —

● 外来各科診察担当医表 ● 医師異動情報

# 京都府立医科大学附属北部医

## ■ 記念式典の紹介

3月30日、附属北部医療センター開設記念式典を開催しました。

京都府 山田啓二知事、京都府議会 近藤永太郎議長をはじめ地元市町長、連携大学や病院等の関係機関、京都府立医科大学学長、病院長、教授など多くのご来賓の皆様にご出席いただき、盛大に行われました。

日 時：平成25年3月30日(土)10時30分～

場 所：京都府立与謝の海病院 外来待合ホール

内 容：式辞・挨拶

来賓祝辞

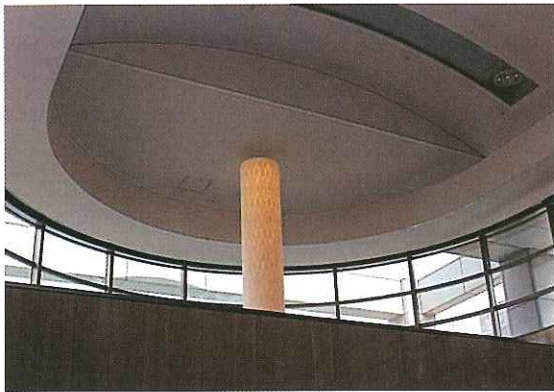
新病院幹部職員紹介

光柱点灯式



## ■ 光柱の設置 (外来待合ホール)

光柱(和紙のオブジェ)は、(株)堀木エリ子 & アソシエイツ代表 堀木エリ子様が作製され、附属北部医療センターに寄贈いただきました。



## ■ 内視鏡室を移転整備

上部消化器の内視鏡室を放射線透視室の向かいに移転整備しました。

部屋は明るく、広く、プライバシーにも配慮しました。安心して検査を受けていただくことはもちろん、内視鏡室内の待合も明るい色調の椅子を置くなど検査前にゆったりとしていただけます。



## ■ 引き続き機能強化を図るため施設や備品を整備

### ● 工事・備品整備予算 860,396 千円

北部医療センターとして機能を充実、強化するため、平成25年度は救急室の拡張工事等を行います。また救急関連備品や診療所等地元医療機関との地域連携医療機器等の整備を行います。

\* 工事中はご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。

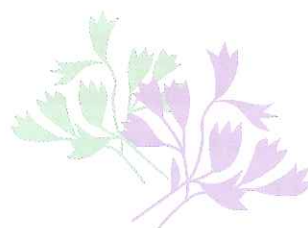
# 療センターが開設されました

## 「放射線科」が始まりました



副病院長 <sup>たけうちよしと</sup> 竹内義人

今春、常勤放射線科医として着任しました。現場の放射線科医の仕事は、日々の臨床現場で診断に悩んだり、治療に手詰まりになるような状況で、画像の相談も含め、うまい解決法がないか主治医と一緒に考えることです。私の専門は、IVR（インターベンショナル・ラジオロジー）といって針やカテーテルを用いた画像誘導下の処置です。治療侵襲が小さいため、がん診療や救急医療にも使用することができます。このような放射線科の診療は、当センターが担う地域医療に少なからずお役に立てると信じております。



## 「もの忘れ外来」が、5月から始まります



診療時間 毎月第1水曜日 午後1時から(予約制)

担当医師 <sup>なか がわ まさ のり</sup> 中川正法 京都府立医科大学大学院 医学研究科 教授  
京都府立医科大学附属北部医療センター 病院長  
(前京都府立医科大学大学院 医学研究科神経内科学 教授)

※予約など詳しくは、5ページをご覧ください。

## 府民公開講座(仮称)を開催する予定です

北部医療センターでは、がんや認知症など医療に関する府民公開講座(仮称)を、今年開催する予定です。

詳しくは、チラシ等でお知らせします。ご期待ください。



## 診療科紹介 リハビリテーション科

当院のリハビリテーション科では現在、理学療法士5名、作業療法士1名が勤務しており、入院患者さんを中心に退院に向けたリハビリを行っています。

理学療法士は身体に障害がある方に対し、「起きる」「歩く」など基本的動作能力の回復を図るため、関節可動域訓練や筋力強化訓練などの運動療法や、歩行訓練などを行っています。

作業療法士は身体または精神に障害のある方に対し、基本能力・応用能力（食事など生活動作）・社会生活適応能力（地域活動への参加など）を維持・改善するため、「食べる」「服を着る」といった日常生活場面の練習や、「編み物」「輪投げ」など様々な作業活動を通して練習することを行っています。

当院では主に整形外科の骨折などの術後の患者さんや、脳出血・脳梗塞を発症し麻痺が出現した患者さんなどを中心に、様々な疾患で障害を呈した患者さんの身体機能改善に向けたリハビリを医師の指示のもとに行っています。



近年では高齢の患者さんの増加とともに廃用症候群と呼ばれる、長期安静による身体機能低下を呈する患者さんも増加しています。安静による筋力低下は1週間で20%とも言われており、全身状態が安定すればできるだけ早期からリハビリを開始していく必要があります。

また、当科では患者さんの家族やケアマネージャーなどのリハビリ見学も積極的に受け入れていますので、疑問・質問などあれば気軽にお尋ねください。

## ナースのお仕事2

— 白數 多恵子 C4師長 —



今回はC4病棟看護師長をしている白數師長をご紹介します。

〔しらす たえこ：平成9年4月から当院勤務、C4師長は平成22年6月から〕

### 質問1：看護師になろうと思った理由

**白數：**幼いころに入院生活を経験し、その頃から漠然と看護師という職業に憧れをもっていました。高校の学校祭行事で支援学校との交流会があり、障害のある児童との交流を経験し、人が人と支え合うことの大切さを学び、看護の道へ進むことを選びました。

### 質問2：あなたのナースの仕事を教えてください。

**白數：**現在勤務している病棟は、消化器内科を主とした49床の病棟です。主に内科的治療や検査を受けられる患者さんや、急性期から慢性期まで、様々な健康障害を抱えた患者さんへの看護活動を展開しています。入院患者さんの思いに寄り添い、患者さんに満足していただける看護の提供を目指して、スタッフ一同頑張っております。

### 質問3：看護師になって感じたこと 今一番感じる事

**白數：**入職は大学病院の消化器外科病棟で、主に手術前後の看護を経験しました。急性期の回復過程を支える看護は展開が速く、必死で学び、技術を覚えた新人看護師時期を、今では懐かしく思い出されます。その頃に一緒に仕事をさせていただいた先輩看護師から「常に患者さんを見る事」の大切さを学びました。それは看護師として患者さんに温かく心を寄り添う事の大切さ、確かな看護技術の大切さ、根拠となる知識や観察力の大切さでもありました。この看護ケアの基本となるこの3つのH（Heart心 Hand技術 Head知識）を、今も自分の看護の原点として胸に刻んでいます。

丹後に帰省し、本院に入職してから地域医療、地域看護に携わり、地域の方々の生活をとても近くに感じ、医療の役割の重要性を感じています。患者さんお一人おひとりの健康と生活を支えるために、ケアの基本の3つのH（Heart Hand Head）を融合した看護の提供に努め、地域医療に貢献していきたいと考えています。



## 地域医療連携室「かけはし」 「もの忘れ外来」について

平成25年5月1日(水)から、京都府立医科大学附属北部医療センター(与謝の海病院)に、専門外来として「もの忘れ外来」を開設します。

### ◇診療時間

毎月第1水曜日 午後1時から(予約制)

### ◇受診方法

かかりつけ医の紹介が必要です。

まずは、かかりつけ医にご相談をお願いします。かかりつけ医から、地域医療連携室へ予約していただきます。

### ◇予約・お問い合わせ先

電話 0772-46-6665



### 開設にあたって (担当医：中川病院長)

今、日本は超高齢化に向かっています。加齢と共にいろいろな病気が気になりますが、そのひとつに「もの忘れ」があると思います。

「もの忘れ」と言っても、年齢相応なもの忘れから、認知症といわれる病的な状態まで様々な状態があります。今回、京都府立医科大学附属北部医療センターに「もの忘れ」外来を開設することに致しました。

ご家族、またはご本人で「もの忘れ」が気になる方は、かかりつけ医の先生にご相談の上、受診してください。

## 地域医療連携室の紹介

地域医療連携室は4月から社会福祉士1名・保健師1名・看護師1名・事務1名の4人になりました。仕事内容は、診療予約、退院支援、医療相談等を行っています。

入院された患者さんは、「病気が治り元の生活に戻ることができる」「病状が安定し退院ができるようになったけれども在宅には戻れない」あるいは「社会資源を活用したサービスを受ければ在宅に戻ることができる」など様々なケースがあります。

入院されたときから退院支援は始まります。病棟との地域連携カンファレンス等、主治医や病棟看護師と連携を取りながら、普段の生活から入院生活を経て再び在宅や施設、他の病院に移られるなど様々な患者さんの状態、ご家族の状態を考慮した支援をしていきたいと思っています。

地域の病院の地域医療連携室、医院の先生、訪問看護師、ケアマネージャー、関係機関の方々と連携させていただき患者さんやご家族の思いに寄り添った退院支援を目指して努力していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



# 外来各科診察担当医表

平成25年4月1日

診察室	診療科	月	火	水	木	金	
11	総合内科	時田和彦 准教授 (副院長)	高田博輝 助教 (医長)	石野秀岳 講師 (医長)	時田和彦 准教授 (副院長)	石野秀岳 講師 (医長)	
12	呼吸器内科	大月亮三 助教 (医長)	大月亮三 助教 (医長)	大月亮三 助教 (医長)		大月亮三 助教 (医長)	
13	消化器内科	玄 泰行 助教 (副医長)	担当医 (新患)	城 正泰 助教 (医長)	井上 健 助教 (副医長)	土肥 統 助教 (副医長)	
14	循環器内科	谷口琢也 助教 (副医長)	川人浩之 助教 (副医長)	高田博輝 助教 (医長)	木下英吾 助教 (副医長)	岸田 聡 助教 (副医長)	
15	神経内科	丹羽文俊 助教 (医長)		第1 午後 中川正法 教授 (病院長)	丹羽文俊 助教 (医長)	中川正法 教授 (病院長)	
26	精神科	西澤 晋 助教 (副医長)	上村 宏 准教授 (医長)	上村 宏 准教授 (医長)	上村 宏 准教授 (医長)	西澤 晋 助教 (副医長)	
23	小児科	小坂喜太郎 准教授 (医長)	吉田秀樹 助教 (副医長)	(1, 3, 5週) 小坂喜太郎 准教授 (医長) (2, 4週) 小川 弘 講師 (医長)	1診 諸戸雅治 助教 (副医長) 2診 第2, 4 午前 栗原康通 講師	小川 弘 講師 (医長)	
18	外科	1診	中村憲司 講師 (医長)	石本武史 助教 (副医長)	當麻敦史 講師 (医長)	中村憲司 講師 (医長)	落合登志哉 准教授 (副院長)
		2診	荻野真平 助教 (医師)		藤田周平 助教 (医師)		(第2, 4) 常盤和明 特任教授
22	整形外科	(1, 5週)	外村 仁 助教 (医長)				
		(2週)	森崎真介 助教 (副医長)	吉岡直樹 助教 (副医長)	森崎真介 助教 (副医長)	外村 仁 助教 (医長)	細井邦彦 助教 (副医長)
		(3週)	細井邦彦 助教 (副医長)				
		(4週)	吉岡直樹 助教 (副医長)				
17	脳神経外科		山中龍也 教授 (隔週) 関本達之 特任教授 (隔週)	山中龍也 教授 (隔週) 関本達之 特任教授 (隔週)	谷山市太 医 師	(1, 3, 5週) 井上靖夫 医 師 (2, 4週) 瓦倉健太郎 医 師	
19	眼科	1診	水野連太郎 助教 (副医長)	糸井素啓 助教 (医師)	小嶋健太郎 助教 (医長)	小嶋健太郎 助教 (医長)	水野連太郎 助教 (副医長)
		2診	丹羽匡世 助教 (副医長)		丹羽匡世 助教 (副医長)	糸井素啓 助教 (医師)	
20	産婦人科	辻 哲朗 助教 (医長)	沖村浩之 助教 (医師)	片岡 恒 助教 (副医長)	(1, 3, 5週) 片岡 恒 助教 (副医長) (2, 4週) 沖村浩之 助教 (医師)	野口敏史 准教授 (副院長)	
24	泌尿器科	堀田俊介 助教 (医師)	問山大輔 助教 (医長)	問山大輔 助教 (医長)	堀田俊介 助教 (医師)	問山大輔 助教 (医長)	
25	耳鼻咽喉科	1診	信原健二 助教 (医長)	信原健二 助教 (医長)	棕代茂之 医 師	信原健二 助教 (医長)	齋藤敦志 助教 (副医長)
		2診		齋藤敦志 助教 (副医長)		齋藤敦志 助教 (副医長)	
21	ペインクリニック		(一時休止)				
16	皮膚科	今井 慎 助教 (医長)		今井 慎 助教 (医長)	今井 慎 助教 (医長)	今井 慎 助教 (医長)	

●受付時間 / 8:00 ~ 11:00 ●閉診日 / 土・日曜日・祝日 (急患は、時間外でも診察)

## 医師異動情報

診療科名	転出(平成25年3月31日)	転入(平成25年4月1日)	診療科名	転出(平成25年3月31日)	転入(平成25年4月1日)
消化器内科	医 師 土肥 萌由 医 長 本庄 尚謙	—	小児科	副院長 西村 陽 医 長 栗原 康通	准教授(医長) 小坂喜太郎
循環器内科	—	助教(副医長) 谷口琢也	—	—	助教(副医長) 諸戸雅治
神経内科	—	教授(病院長) 中川正法	眼科	医 師 三重野 洋喜	助教(医師) 糸井素啓
外 科	副医長 石井 博道	助教(副医長) 名茶 武史	泌尿器科	医 師 彌川 成優	助教(医師) 堀田俊介
	医 師 池本 公紀	助教(医師) 藤田 周平	精神科	医 師 小野 淳子	助教(副医長) 西澤 晋
整形外科	—	講師(医長) 吉田 隆司	放射線科	—	—
脳神経外科	院 長 関本 達之	—	麻酔科	医 長 細川 康二	助教(医長) 竹内 義人
産婦人科	医 長 小柴 寿人	—			
	副医長 小芝 明美	助教(副医長) 片岡 恒			
	—	助教(医師) 津村 浩之			

【発行】京都府立医科大学附属北部医療センター (与謝の海病院) 【問合せ先】庶務課  
 TEL/FAX 0772-46-3371 (代表) ホームページ <http://nmc.kpu-m.ac.jp/>  
 ホームページから“お見舞メール”サービスがご利用いただけます。